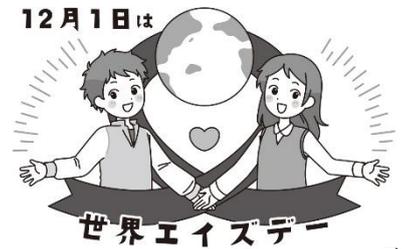


# ほけんだより

# 12月

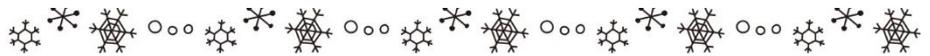
令和5年12月1日  
佐敷小学校 保健室

12月1日は世界エイズデー。エイズについて正しく知って差別や偏見をなくすことを目的として世界中で様々な活動が行われています。みんなが自分らしく生きる社会をつくるために何ができるか考えてみませんか。



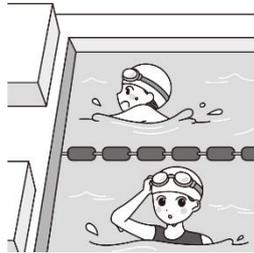
## 12月の保健目標 冬を元気にすごそう

### エイズってなに？



私たちの周りにはかぜやインフルエンザなどたくさんの感染症があります。かぜやインフルエンザは、学校など人が集まる場所で感染することが多いです。でも、エイズの原因になるH I Vはとても感染力が弱いので、ふだんの生活でうつることはありません。

エイズはあくしゅをしても同じプールやお風呂やトイレを使ってもうつりません。



また、今ではH I Vに感染しても、治療しながら今までと同じような生活を送ることができるようになりました。でも、正しい知識がないために感染が広がり、他の国では子どもが命を落としています。2022年1年間にH I Vに感染した人は世界中で130万人、そのうち子ども(15才未満)が13万人、エイズで亡くなった人は63万人でした。

私たちの身近になった新型コロナウイルス感染症も、以前は差別や偏見がありました。正体の分からないウイルスへの「不安」があったからです。今では、新型コロナウイルスは手洗いや換気などの行動で感染を防ぐことができると分かるようになりました。こうしてみんなが正しく知ると間違った情報やいやなうわさも流れなくなりました。

「正しく知る」ということは、①病気から自分の体を守るため、②差別や偏見をなくすために大切です。病気がある人もない人も「みんなが自分らしく生きる」ために何ができますか？まずは、相手のことを知ろうとする気持ち、思いやりの気持ちが、差別や偏見のない社会につながると思います。